

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

平成29年12月1日（金）第5校時
場 所 体育館

1 単元名「米作りに挑戦！」

2 単元目標

- ・米作りの体験（田植え、稲の観察など）を通して、自分の生活の一部として関わりをもつ「米」について幅広く知り、米のよさや大切さ、米作りに関わる人々の苦労や願いに気づき、さまざまな食文化や食生活に関心をもって自分のできることを考える。
- ・自分の考えをまとめたり、調べた内容や自分の考えを深め、それを適切に表現できる。
- ・米に関わる人々との交流や米に関連する事象を調査することを通して、米のよさや問題に気づき、自分の生活との関係について考えようとする。

3 単元について

（1）単元設定の理由

本単元では、米について学習を行うが、米を素材に学習を展開する理由は次の通りである。

- ①地域の方々の協力を得ながら、田植え、観察、稲刈り等、長期にわたる体験的な学習を組み込むことができる。
- ②米は日本人の生活に根付いている食に関わることであり、自分たちの生活に関わりの深いものである。
- ③米から歴史や未来、文化風習、自然環境、生産及び経済等、多様な面から、概念、価値、事実、方法的な知識獲得の可能性がある。
- ④地域に米に関わる人や事象がたくさん存在し、調査やその検証及び多様な学習活動が展開できる。

以上のことから、お米を素材とすることで、児童にとって主体的学習や学び合いを促し価値ある知識の獲得と児童自身の思考過程や知識の再構築がはかれると考えた。

（2）児童の実態

本学年の児童は、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいる。1学期に行った意識調査では、98%の児童が「体験ができるから楽しい」「地域の方々から教えていただきながら学ぶことができるのが楽しい」という結果となった。4月にはお米についての意識調査を行い、調べたいことを整理して学習の準備を進めてきた。5月には田植え体験、9月には稲刈り体験、11月には脱穀体験や飯ごう炊飯を行い、どのように米作りが行われているのかについて、実際に学んだことをまとめることができた。

また、米についてのウェビングマップや意識調査を再確認しながら、学習発表会に向けて各学級で情報の整理をし、課題について話し合いを進めていくことができた。しかし、実際に体験したことを整理・分析して発表したり、自分の言葉で表現したりすることなど、児童同士の話し合い活動を苦手とする児童もいる。そのためにも、個々の考えを広めていく方法と

して思考ツールを活用し、物事を多面的に見て表現したりする力の質の向上を図りたい。

(3) 教材について

本単元では実際に稲を栽培し、田植えから収穫・消費までを体験する。その地産地消体験を通じて、稲作の苦労や難しさを実感し、収穫の喜びを味わうことが1つの重要な学習活動である。また、文献やインターネットなどを活用し、米についての知識を深めたり広めたりすること、農業や環境などへの問題意識に対して自分なりの考えを持つことも大切な活動である。実際に体験したことや調べたことをもとに、より深く物事を考え、自分が未来に向けてとるべき態度を育てていきたい。

単元の導入では、実際にお米を栽培することを計画することで、本単元の動機付けを図る。この体験的学習をする中で、ウェビングマップを活用しながら、個人の興味・関心に基づき、自分自身の思考を整理し、深めながら各自の課題について、調査活動を展開する。

そして、随時、個人の思考をクラス、学年のウェビングマップに集約することで、及び各自の問題意識や調査結果等を交流しながら、お米に関わる多様な領域や知識の学び合いを促し、新たな問題意識や知識や思考の再構築を図る。その中で、お米作りに関わる稲刈り、脱穀、調理、試食等の活動を展開し、稲の植物的生長と共に稲、米に関わる課題意識や調査意欲を持続させる。その活動には、できる限り、お米に関わる人々に学習に関わっていただく。その際、思いや願い、米に関わっている実際の話をしていただくと共に児童の学習、調査結果の検証や新たな問題意識を高めるように構成する。

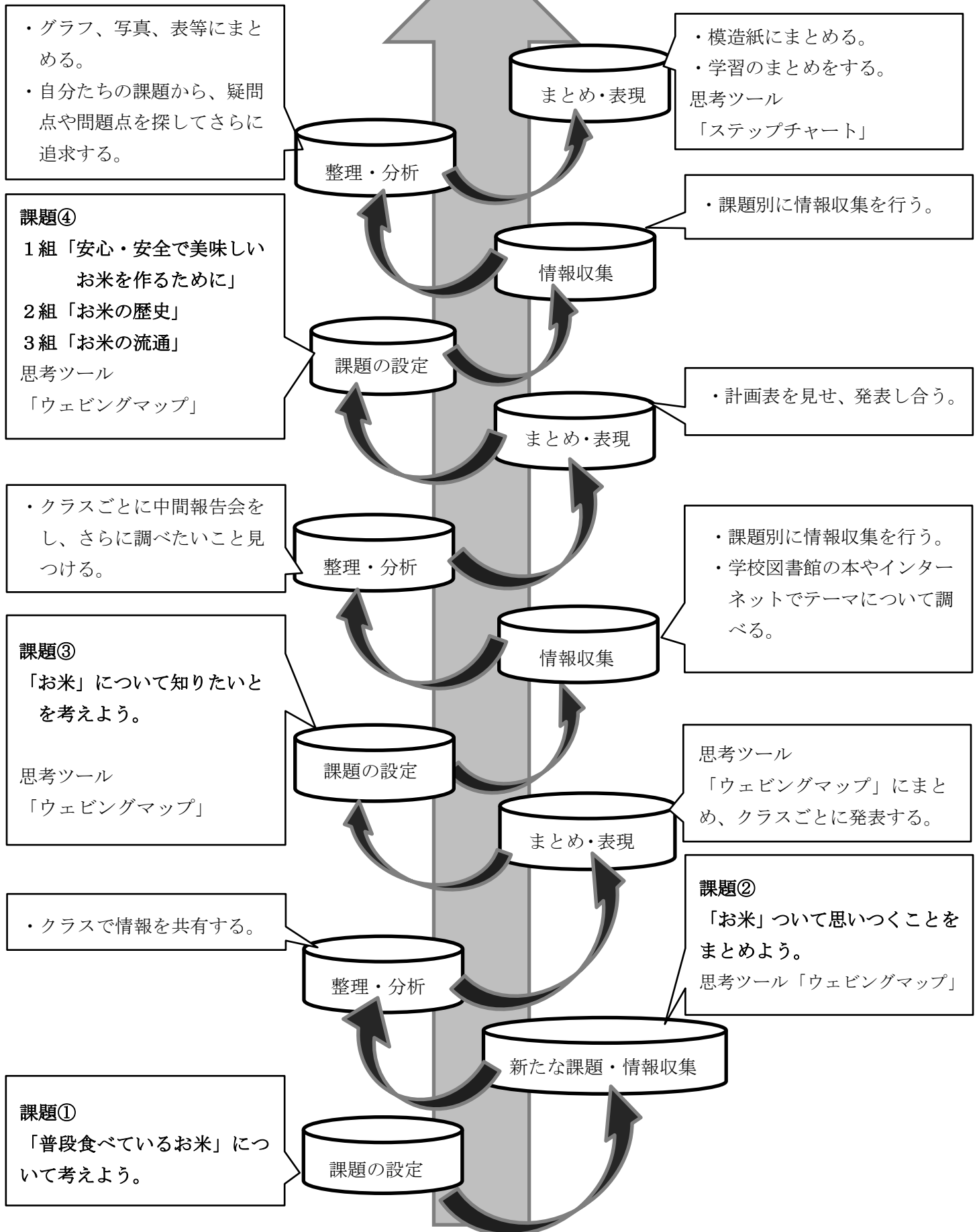
単元の終末においては、学習報告会を行い、クラス、学年のウェビングマップを基に、調査結果や児童の思考過程、児童自身の思い等が発表され、多様な知識等が交流できるように学習を展開する。そして、ゲストを招き、実演や児童の調査結果の検証や意義づけ、新たな知識の獲得や児童が価値を判断できるように構成する。そして、これからの「お米」について児童自身が価値判断や主体的な態度が形成されるように学習を展開する。

単元では、児童同士が思考を深めたり、広げたり、交流できるように思考ツールを活用したり教員が助言、支援をし、主体的学習が促され、価値ある知識獲得ができるように留意をする。

4 単元の評価規準

| ア 課題を発見する力 | イ 課題を解決する力 | ウ 表現する力 | エ 自己の生き方 |
|---|---|---|--|
| ① 農家の人やゲストティーチャーの話聞いて、食生活について進んで調べようとしている。 ② 米や米作り、食文化に関心を持ち、進んで課題を見付けようとしている。 | ① 米作りや食生活の課題について情報を集めて、解決することができる。 ② 自分なりに計画を立て活動が進めることができる。 | ① 聞き手を意識して、発表をまとめ、表現することができる。 ② 米のよさや大切さ、食生活の課題などを相手に伝えるために発表方法を考え工夫し、効果的な表現をしている。 | ① 他者の発表や自分の学習をふり返り、さまざまな食生活や食文化に気付く、自分ができることを考え実践しようとする。 |

5 活動の流れ



6 単元の指導計画・評価計画（38時間扱い）

| 時数 | ○学習内容・学習活動 | ・指導の留意点 | 評価規準 【評価方法】 |
|---------------|--|---|--------------------|
| 1 | ○オリエンテーション ・お米作りの日程、めあてを確認する。 ・田植え体験についての説明を聞き、田植えの仕方について理解を深める。 | ・これから学習する「お米」について関心をもつことができるようにさせる。 ・田植えについての理解を深め、農家の方々の工夫や苦勞を知ることができるように指導する。 | アー② 【観察】 |
| 2 | ○お米についてアンケートを行い、普段食べているお米のことを知る。 | ・アンケートをすることで普段どのように「お米」と関わっているかを自己で確認させる。 | アー② 【観察】 |
| 3 | ○「お米」について思いつくことをウェビングマップにまとめ、お米について関心を高める。(個人⇒クラス) ・これからの学習に向けた課題を設定する。 | ・ウェビングマップを作成し、クラス全体で共通の課題が設定できるよう声掛けをしながら取り組ませる。 ・個人で作成したものをクラスに広め、クラス全体で一つのウェビングマップを作成できるように指導する。 | アー② 【観察・ワークシート】 |
| 4 ～ 7 | ○田植え体験を行う。(5月) ・加須グリーンファームの方々の協力のもと実際に田植え体験を行う。 ・田植え体験終了後、感想を書く | ・グリーンファームの方々の話をよく聞き、苗の量や水田に入る感覚を忘れないように指導する。 | アー① 【観察】 |
| 8 9 | ○稲の観察をする。(9月上旬) ・自分たちで植えた稲がどのくらい生長したのかを観察する。 | ・稲の細かい部分までよく観察させる。(稲の色、長さ、穂に付いているお米の数など) | アー① 【観察】 |
| 10 | ○「お米作り」の課題を再確認する。 ・4月に行ったウェビングマップをもとに「お米」について知りたいことをさらに深めていく。(グループ) | ・田植え体験や稲の観察を終えて、「お米」について知りたいことを絞り、さらにウェビングマップを広げることで理解を深めることができるようにさせる。 | アー② 【観察・発言】 |
| 11 ～ 18 | ○本やインターネットなどを使い、詳しく調べる。 | ・お米の歴史について ・おいしいお米を作るための工夫 ・作ったお米を売るために必要なこと | イー①② 【観察】 |
| 19 | ○稲刈り・脱穀を行う。(9月下旬) | ・互いに協力して活動させる。 | アー① |

| | | | |
|---------------|--|--|-----------------------|
| ～ 26 | ・稲刈り・脱穀方法を知り、活動の準備を行う。 | ・稲刈りの工夫や農家の方々の苦勞を自分の生活と関係付けながら活動させる。 | 【観察】 |
| 27 ～ 31 | ○自分たちが脱穀したお米を調理し試食する。 | ・自分たちの収穫したお米を調理し、食べることでお米一粒一粒のありがたみを知ることができるように指導する。 ・家庭科の学習と関連づけながら取り組ませる。 | ア－① 【観察】 |
| 32 ～ 35 | ○発表内容をまとめる。 ・「お米」についてステップチャートを使いながら分かりやすくパネルにまとめる。 ・グループごとに相手に分かりやすく伝える工夫をしながら、発表の準備をする。 | ・まとめ方について考えさせる。 ・調べたことを生かして、相手に分かりやすくまとめられているか確認する。 | ウ－① 【発表・作品】 |
| 36 本 時 | ○報告会を行う ・様々な視点からの「お米」についての発表を聞き、多様な知識を交流する。 | ・相手を意識し、自分たちの考えを伝えられるようにする。 ・これまでの学習をワークシートをもとに振り返る。 | ウ－② 【観察・発表】 |
| 37 38 | ○単元のまとめを行う。 ・獲得した知識から自分ができることを考える。 | ・大切な日本のお米をどう残していくために自分ができることを考え、ワークシートにまとめさせる。 | エ－① 【観察・発表・ワークシート】 |

7 本時の学習指導（36／38時）

（1）目標

様々な視点からの「お米」についての発表やゲストティーチャーの話を聞き、自分たちが取り組んだお米作りについての考えを深めるとともに、未来に向けて自分たちが何をすべきかを考えることができる。

（2）本時について

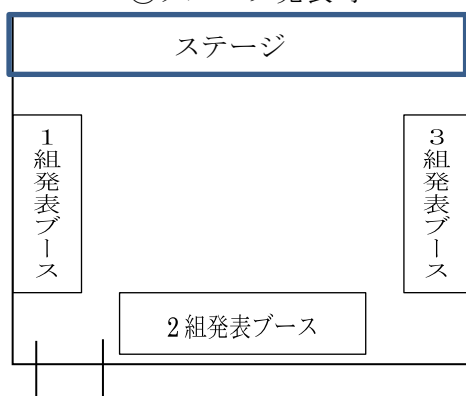
本時では、これまでに作成した資料や実際の農具等をもとに発表したり実演したりして、学んだことを分かりやすく発表する。また、発表やゲストティーチャーの話を聞き、自分の考えを深め、学習のまとめを行う。

(3) 展開

| 主な学習内容・学習活動 | ・指導上の留意点 ★評価規準（評価方法） ☆支援 | 時間 |
|--|---|-----|
| 1 本時のめあてを知る。 | ・見通しをもって活動を行えるように、学習内容を理解させる。 | 3分 |
| 調べたことを発表し、お米博士になろう！！ | | |
| 2 各グループに分かれ、まとめたことを発表したり聞いたりする。(各学級) ・「安心・安全でおいしいお米を守るために」(1組) 「お米の歴史について」(2組) 「お米を売るために」(3組)について班ごとに分かれ、調べたことを発表する。 ・ゲストティーチャーの実演を通してお米作りに必要な道具等を体験する。(ふれあい推進長 田村様) ・さまざまな視点からの「お米」についての発表を聞き、わかったことをまとめる。 | ・各グループの発表を聞き、お米についての知識を広げさせる。 ☆具体物や資料を使って、自分たちが調べた内容をわかりやすく発表するように助言する。 ★米のよさや大切さ、食生活の課題などを相手に伝えるために発表方法を考え工夫し、効果的な表現をしている。(観察・発言・ワークシート) | 24分 |
| 3 「お米作りから私たちが学んだこと」についての発表を行う。(全体) ・学年のウェビングマップや資料をもとにお米作りへの取り組みについて発表を行う。 | ・代表児童を中心にスライドを基に、今までの活動の振り返りをさせる。 ・お米作りから学んだことを聞き、未来に向けてできることを考えさせる。 ★他者の発表や自分の学習をふり返り、さまざまな食生活や食文化に気付く、自分ができることを考え実践しようとする。(ワークシート) | 10分 |
| 4 ゲストティーチャーの話を聞く。 | ・グリーンファームの牛久保所長様のお話と自分たちが調べてきたお米についての知識を合わせて、理解を深めさせる。 | 5分 |
| 5 お礼の手紙を渡す。(クラス代表) | ・全員で感謝の気持ちが伝えられるようにさせる。 | 2分 |
| 6 本時の活動と本単元の振り返りを行う。 | | 1分 |

8 場の設定 (本校体育館)

①グループ発表時



②全体発表時

